

N25b **JVO における HDS 一次処理済みデータの公開**

石垣美歩 (NAOJ)、青木和光 (NAOJ)、白崎裕治 (NAOJ)、大石雅寿 (NAOJ)、田実晃人 (ハワイ観測所)

HDS で取得された恒星の高分散分光データは、取得から 1 年半後に SMOKA や JVO を通して一般に公開されている。その中には、幅広い大気パラメータ、化学組成、固有運動をもつ恒星について、紫外から近赤外領域までさまざまな波長域にわたる分光データが含まれており、注目する観点によっては新しい研究の素材となることが期待される。しかし生の画像からスペクトルを導出するためには、観測時の設定や光学系の微小な位置変化などによって処理手法を最適化する必要がある、実際に観測を行った人以外が処理をするのは容易ではない。HDS の一次処理済みデータは、これまでに Japanese Virtual Observatory (JVO) ポータルサイト (<http://jvo.nao.ac.jp/portal/>) において、2005 年以前に取得されたものについてはすでに一次処理・公開が済んでいた。我々はこのデータに加えて、2005 年 11 月以降に取得・公開された生データに対して、観測時に記録される観測ログを活用した半自動のプロセスにより、一次処理を施した。一次処理過程では、IRAF の標準タスクおよび HDS クイックルック用タスクと Python スクリプトを組み合わせたコードにより、フラット処理、アパーチャー決め・波長校正等を、同じ日に同じ設定でとられたデータに対しては半自動で行う。現在一次処理の結果は、較正用データ等も含めて、JVO ポータルサイトで試験的に公開している。今後、処理手法のみなおしや自動解析スクリプトの公開等を含めて、随時改訂していく予定である。一次処理済みデータは、恒星スペクトルの概観や、観測提案の作成、サイエンス目的に自分で再解析する際の参考として活用できることが期待される。本発表では具体的な処理内容と、公開している処理済みデータ・較正用データの内容について紹介する。